

『アグダスの書』入門

ビエール・イヴ・モーキー

＜概要＞

ソバハイ学術研究会・日本支部第2年次大会が1993年2月に東京ソバハイ全国センターで行われたが、そのときの私の発表の概要と注をここに記す。東京での発表のためにカナダを出発するちょうど前日に最も聖なる書を受け取った。そのため、概要の大部分は私が参照したり使用した参考文献と個人的に手に入る資料からなり、最も聖なる書の概要は含まれていない。

大会後、『アグダスの書』の英訳がおおやけになり、多くの著名な学者たちがその研究を続けてきた。私の概要には、そのような学者たちが過去2、3カ月の間に発表したコメント、特にチキサスのアハンダ・ラバニ氏のを付け加えた。ラバニ氏は私に『アグダスの書』、特にババアの著作と『アグダスの書』との関係に関する自分の研究ノートを貸して下さった。エサヤト・ラウワン氏の『アグダスの書』に関する講義とワークシヨツプは、カナダのソバハイ共同体に最も聖なる書、特にその「精神」に対する興奮と理解とを高めた。

最後に、私の概要は、不十分ではあるが、『アグダスの書』の研究に対する一つの手段にすぎないといふまでいたしたい。「アグダスの書」に関するもっと徹底した学術的な研究は、北米ソバハイ学術研究会が『アグダスの書』に関するシンポジウムの研究収録を間もなく発行する予定である。このシンポジウムは「精神性」をテーマにした第17回大会前に、1993年6月にモントリオールのマクギル大学で開催された。

概要：発表内容の分野
序

- A. 啓示から翻訳へ
- B. 『アグダスの書』の段階的発表
- C. 研究のための文献
 - I. 『アグダスの書』が啓示された状況
 - A. 歴史的状况
 - B. 以前の宗教の掟 (ユダヤ教、キリスト教、イスラム教) とそれらの『アグダスの書』との比較
 - C. ババアの掟と『アグダスの書』との関係
 - II. 『アグダスの書』の特徴
 - III. われわれの受け止め方
 - A. この掟は聖約である
 - B. 服従は真の自由である
 - C. この掟を理解するには、世界的視野が必要である
 - D. この掟は正義を確立するために必要である